

「実行者」

～案ずるよりは産むがやすし～

ヤコブ2：14～26

■ 神様はデザイナー

ふくろう蝶という羽にふくろうの目のような文様のついた蝶がいます。この蝶は葉っぱなどに止まっていると羽を鳥のふくろうの目のように見せて身を守っています。蝶は主に昼間活動します。しかし、ふくろうは夜行性です。進化なら、昼間活動するなかで、蝶が周りを見て、感じて、身をまもるように適応していくでしょう。しかし、夜行性のふくろうとこの蝶がどうやって出会うのでしょうか。ましてや、この蝶の天敵の天敵が、ふくろうであるとなぜわかるのでしょうか。すべてのものを造られたデザイナーである神様の存在がなければ説明ができないのです。このように神様は私たちの人生において、全体を見て、作品を仕上げようとしているのです。ですから私たち隣にいる人や自分に向かってくる問題に対して、痛みや、敵と判断してしまうのではなく、神様はもっと大きな意味をもっておられるということに気が付かなければなりません。今、大きな問題である新型コロナウイルスにおいても目の前の問題だけを見て右往左往するのではなく、今だからこそ何をしなければならぬか、しっかり考えなければなりません。

■ 行いは信仰の証；ヤコブの手紙2：14～26

行いがなければ救われぬのか？と議論されますが、そうではありません。ローマ書にあるように、イエスキリストを信じる信仰によってすべての人が救われるのであって、行いによって救われるものではありません。ヤコブの手紙は救われたクリスチャンがどう歩んでいくかということを中心に置いています。その行いによって顕される証によって、その救いが証明されるのです。救われたことの証は、あなたの行いによるのです。

■ 実行者：安ずるより産むがやすし

私たちは考える生き物です。考えることと安ずることは意味が違います。不安、問題があって考えるときは考える方法が違います。不安や、問題がある場合私たちは自己防衛を考えます。自分を守るために相手を倒す方法を考えます。しかし、本来、私たちは神様が任せたものを守るために考えなければなりません。それはこの地上の管理者として本来の姿を守ろうとすることが本来の役割だからです。神様から与えられた地を管理するクリスチャンはこのような情勢のなか、何を行えばよいのでしょうか。周りの人やコロナウィルスを敵にして、悪いことのために悪いことを考えるのではなく、良いことのために良いことを行うのです。それが実行者になるという事です。神様がふくろう蝶を守るためにふくろうの目の文様を与えた意味を知らないといけません。ふくろう蝶は自分の敵でもなく、認知できるよしもないふくろうの目を自分の羽につけていました。これは神様の御業としか言えません。この事から私たちが敵だと認識し、それから守る方法とは違う方法で、神様は私たちを守る事が分かります。それなら私たちは目の前に起きていることを問題とするのではなくはなくて、その問題になぜ私たちが憂慮しているのかに目を向けていかなければなりません。

■ ①行いのある生き方！！ヤコブ2：16～17

これは比喩として食べ物について言っています。食べ物がなくておなかがかすいた人に、食べるよと言っても、食べるものが無ければ意味がないのです。おなかがかすいているなら、まず食べ物を与えて、御言葉を伝えるのです。これが神の計画です。私たちの周りにも人間関係、心、お金の問題があります。それを見たときに非難して、自己防衛するだけでは問題解決にはなりません私たちは世の光、地の塩です。私たちは、行いのある生き方をどうやって外に顕すかをいわれています。私たちの後の人々に信仰の義の実を結ばなければなりません。

■ ②神様と(友)共に！！ヤコブ2：21～25

私たち日本人は土着化した宗教観により、神様は怖い人で、罰を与えるから、罰を受けないように生きる。と考えてしまいます。しかし聖書は違います。善を行うことによって悪を教えようとしているのです。人は善悪を知る木の実を食べない決断によって正しい決断をし、神の御心と悪を知る必要があったのに、人は裏切って食べてしまい、人のせいにするという悪を知ってしまいました。そして、悪から遠ざかるうとして、悪と戦う。こういう生き方を選んでしまいました。だから、人の悪が目につけてしまうのです。人の悪の根源を絶って解決しようとするのではなく、悪のプロセスに対して仕打をしようにします。悪によって悪を解決しようとしてないかもう一度、自分を顧みましょう。相手のおかしいところを指摘するではありません。その人の本来の姿を見いだして、正しく導くのです。自分の目線のみではなく、

神様はその人にどのような計画をもっているかを感じ、もし、問題を感じさせたのなら、その問題を放っておかず、解決していく必要があります。肉の父母は時には間違ってもありますが、神様は命を懸けてまであなたに愛を示そうとする方です。だから神様を敵と思っはけません。罰を与える怖い方ではありません。私たちの信仰の父アブラハムはその子イサクを祭壇にささげたとき、たとえ息子を手にかけても息子は帰ってくる。もっと良くしてくださいと信じていました。そして、信じたと通りになりました。アブラハムはすでに神様の友だったのです。罰を与える方とは思っていませんでした。神様はあなたの友であることを知ってください。(ヨハ 15:15)『わたしはもはや、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。』

■ ③影響を受けない！！影響を受けるとどうなるか？ヤコブ2：26

だから、影響を受けない人生を選びましょう。新型コロナウイルスの蔓延や、災害が予測される中、影響を受けないとはどういうことでしょうか。心を平安に保ち、それぞれの役割に応じて備えていく必要があります。そのために、影響を受けないことです。では、影響を受けるとどうなってしまうのでしょうか。魂を離れた体が、死んだものであると同様に、行いのない信仰は、死んでいるのです。これが影響を受けた様です。心で思っていることを人は行いたいものです。ところが体が言うことを聞きません。明日は朝5時に起きてやるぞと決めています。朝起きた時には体が起きたくない、あなたに言います。めんどうくさいな、という感情があなたの意志に攻撃を与えます。それは、行いのない信仰で、影響を受けた様です。たくさんのニュース、情報、人の言葉で、あなたは決断をしていませんか。それとも、たくさんのニュースを見て、情報を知ったのなら、あなたはそれをもとに影響を受けるのではなくてあなたの魂の意志によって決断をしているのでしょうか。このことをよく確認して、この一週間を歩みたいと思います。慌てふためいてはいけません。影響を受けたいけません。魂と体が分離した死んだ人にならないで下さい。私達は感情的衝動に動かされるのではなく、意志に基づいて行動しましょう。

■ ヤコブ3：12～18

あなたは何の木ですか。あなたに与えられた自分の木の実を結びましょう。間違った実を結ばないでください。隣と比較し、まねをして実を实らせたとしても、それは偽物です。あなた自身が結ぶ実とはあなたです。知恵があるから、柔和なのです。上からの知恵は必ず柔和です。知恵に基づいているかどうかの判断基準は、柔和でいられるかどうかです。柔和であるかどうかを自ら探らなければなりません。(ヤコブ3:13～18)『あなたがたのうちで、知恵のある、賢い人はだれでしょうか。その人は、その知恵にふさわしい柔和な行いを、良い生き方によって示さなさい。しかし、もしあなたがたの心の中に、苦いねたみと敵対心があるならば、誇ってはいけません。真理に逆らって偽ることになります。そのような知恵は、上から来たものではなく、地に属し、肉に属し、悪霊に属するものです。ねたみや敵対心のあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行いがあるからです。しかし、上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順であり、また、あわれみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです。義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます。』

さいごに

そして最後に、それぞれの人生には定められたときが在ります。それが今日かもしれません。今終るとするならば、あなたは本当に喜んで天国に帰れるかを考えて下さい。あなたは、神様のところに帰った時、良い、忠実な僕と言われるのでしょうか。私達に定められたときに私達がどう生きたかが大切です。今までどんなものを人々に与えてきましたか。そして、どんなものを継承したいですか。この先、どんな事が起こるか私達にはわかりません。しかし、神様は全てをご存じです。だからこそ、私達は信じて正しい決断を選ぶことができるのです。私たちの命が定められたその時まで、死に至るまで忠実でありたいと願います。いま、自らに偽らず正しい生き方ができているか考えてみましょう。

(要約者：澤口明子)

(2020年3月29日)